湯の街別府から14回目「北浜で路地裏散歩」

湯の街、別府で観光客が足を運ぶ繁華街「北浜」には、昔ながらの名もなき路地が数多くある。夜の観光ガイドで、路地裏散歩というコースもあるほどで、路地には飲食店の軒が建ち並び、どの店に入るか悩むこともしばしば。そんな路地の中で歴史のあるのが「竹瓦小路」だ。

100年の歴史がある「竹瓦小道木造アーケード」

レトロな共同温泉浴場で有名な「竹瓦温泉」の目の前に、幅3メートルの細い道が70メートルほど伸びている路地で、竹瓦温泉と県道がある流川通りまでほぼ直線で結ばれている。天井はガラス張りで、その天井からは別府の工芸品である竹細工がぶら下がっ

ていて、夜ともなれば灯りがともり、情緒的な光景が広がる。「竹瓦小路」は日本最古のアーケードとして知られ、完成したのは今からおよそ100年前の1921年12月1日。正式名称は「竹瓦小路木造アーケード」で、アーケードが鉄骨ではなく、木造で造られているのが大きな特徴だ。

県道の流川通りから見た「竹瓦小道」の入り口

この場所に木造アーケードが造られたのは、大阪と別府を結ぶ客船が発着する別府港が流川通りにあったためで、大阪方面から訪れた観光客が雨にも濡れずに、リウマチに特効があると人気だった竹瓦温泉に行けるようにとの”おもてなし”の心から。通りの両側には、2階建ての棟割長屋並び、観光土産を売る店が入居していて、往時には人が通れないほど賑やかだったという。

しかし、1967年に別府港が現在の国際観光港に移転すると、次第に賑わいを失ってしまう。そのため、土産物店が撤退し、空き店舗が目立つようになってしまったが、1970年以降には料飲街として、かろうじて命脈を保っていた。

いつしか観光客にも忘れ去られてしまった竹瓦小路だが、2000年代に入ると、オープンカフェなどの新規出店や、街歩きツアーによる小路の活性化が進んで久々に復活。2004年に登録有形文化財に、そして2009年には経済産業省が認定する「近代化産業遺産」として、竹瓦温泉とともに「別府温泉関連遺産」に認定されると、一気に注目を集める存在になった。

今では、地元の有志が竹瓦小路の保存・再生に向けた取り組みが進み、2021年12月には完成100周年を祝うイベントも行われて、地域の魅力を発信している。ただ、建材の一部が腐食するなど、維持・補修には苦労しているようで、活動もままならないようだ。しかも、コロナ禍の今、竹瓦小道を歩くと、スナックや中華料理店などの看板は寂しく、日中は行き交う人も少ない。

竹瓦温泉から見た「竹瓦小道」。前方が流川通り。

それでも黄昏時、あっちの路地、こっちの小路にネオンの花が一つ咲き、二つ咲き出すと、蜜の香りに誘われた蝶のように一人、二人と吸い込まれていく。そんな情景を見ていると、竹瓦小路に限らず、別府北浜の繁華街にある路地裏には不思議な魅力を感じさせる。

竹瓦小道とは別の路地裏「竹瓦温泉横丁」

文 / 摄影：铃木源柱

翻译编辑：JST客观日本编辑部